

## 令和4年度 特色ある道徳教育推進校

### 県立匝瑳高等学校

#### 研究主題

「道徳性の向上を目指し、よりよく生きようとする生徒の育成」  
～「道徳を学ぶ時間」の授業における指導方法の工夫を通して～

#### 取組1 「道徳を学ぶ時間」の授業における指導法の工夫

##### 工夫1 授業の地道な積み重ね



- 1 答えは出さない（教師が答を言わない・押しつけない）
- 2 生徒が考える・生徒が気づく
- 3 友達の考えを聞いて、考えを深化する（シェアリングが大事）
- 4 即効性を期待しない（いつか芽が出るのを期待してタネをまく）
- 5 発問が命（生徒がうなるような発問を！）

○「道徳を学ぶ時間」の授業での〈5原則〉をもうけ、授業を組み立てた。生徒に考えて欲しいことを明確にし、そこから発問や教師の体験談など主題に迫る方法を考えた。

##### 工夫2 「ローテーション道徳」の研究



回数	A	B	C	D	E	F
1	推進	A担	B担	C担	D担	E担
2	F担	推進	A担	B担	C担	D担
3	E担	F担	推進	A担	B担	C担

○「道徳を学ぶ時間」の授業を究めるために、一人の教員が1つの教材で全クラス授業するローテーション道徳を行った。道徳の授業や道徳教育の研修機会が少ない高校の教員にとって、1つの教材を繰り返し扱うことで、授業の展開の仕方を学ぶことができた。推進教員がローテーションに加わることで、他の授業を見学する時間を設けることができた。

##### 工夫3 「明日への扉」や千葉県道徳映像教材（DVD）の活用



- A 「なぜ優れたリーダーは『失敗』を語るのか」
- B 「助け合って生きていく」
- C 「見つめよう『日本人』の姿」
- D 「人として生きる 社会に生きる」
- E 「誰が県大会に出るの？」（以上「明日への扉」Ⅲ・Ⅳより）
- F 「守りたいもの」（千葉県道徳映像教材）

○道徳の授業で一番難しいのは、教材の開発であると考えている。そこで今回は県の読み物教材や映像教材の中から、自分の取り組みたいテーマや教材を選び、研究した。各自が自分で

選んだ教材だったので、進路指導部の教員はキャリア教育を、地元出身の教員は郷土愛の教材を、外国語の教員は、国際社会からみた日本など、自分の得意分野を生かすような教材選定となった。教員の興味・関心が生きた教材選定だったので、授業を繰り返すうちに、発問の仕方や話し合い活動の工夫、教員の体験談や思いを伝える場面の挿入など、それぞれで創意工夫し、授業改善につながった。

#### 工夫4 教材開発と道徳ノート

○県の道徳教育の柱の一つである「生命尊重」を選ぶ教員がいなかったため、推進教員が教材開発をし、「生命を守る装置をつけますか」という授業を行った。（授業実践例）  
また、以前取り組んだ「道徳ノート」の研究を生かし、「今日の授業をノート（今回はワークシートだったが）に残そう」という実験的な取組も実践した。

#### 取組2 生徒の自己肯定感を高めるために

#### 道徳講演会「相手も自分も大切に生きる生き方」吉井 奈々さん



○1・2学年合同の講演会  
コロナ禍ではじめて体育館で  
2学年が集まった。

○放課後の交流会は、奈々さんの  
生き方や人柄に惹かれ、たくさ  
んの生徒が集まった。

吉井奈々さんをお招きして、「相手も自分も大切に生きる生き方」という講演会を行った。「男に生れて女になって結婚もできました」と明るく話す吉井さんの生き方や言葉に共感したり、感銘を受けたりする生徒が多かった。

#### 先生方から～研究を振り返って～

- ・地元（匝瑳市野栄）の教材を使って授業を行った。自分の住んでいる場所を自慢していることに驚いた。ローテーション道徳は継続した方がよい。今度は副担の先生にも入って欲しい。
- ・何度も同じ授業をしたので、授業に慣れた。やり方が少し分かった気がした。
- ・話し合いのグループの作り方、指名の仕方など色々な面で工夫をした。
- ・生徒たちが道徳の授業を好きなことが分かった。発問の工夫や生徒たちに考えさせるテーマ選びが大切。

#### 主な成果と課題

- 学年全体で「道徳を学ぶ時間」の研究に励むことができた。
- ローテーション道徳の研究は、教員の負担が少なく、同じ授業を繰り返し行うので、授業の反省を次の授業に生かすことができ、振り返りと改善を重ね授業改善につながった。
- 生徒は授業を通して、教員の多様な価値観に触れ、それぞれのテーマについて考えるきっかけとなった。
- 今回の研究を次年度にどうつなげていくかが課題である。
- 道徳の授業について学ぶ機会が少なかった。近隣の小・中の先生方の授業を見学したり、研修会に参加したりするなどして、授業力の向上を図ることが課題である。

## 授業実践事例

### 1 学習指導案

#### 高等学校 1 年 D 組 「道徳」を学ぶ時間指導案

令和 4 年 1 1 月 9 日 (水)

(1) 主題名 生命尊重～命の大切さについて考える

#### (2) ねらいと教材

生命倫理について様々な立場から考え、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

「生命を守る装置をつけますか」 (自作教材)

#### (3) 主題設定の理由

現代は、テクノロジーの進化によって、あらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にある。そのような時代を生き抜くために、生徒たちは様々なスキルを要求されている。「生命は大切だ」ということは、誰しも分かっていることである。しかし近年、科学技術の進歩とともに、安楽死や尊厳死といった新たな課題となっている生命倫理の問題については関心も薄く、考える機会も少ない。本教材で取り上げる「トロッコ問題」は哲学の分野では、有名な話である。近年、自動車の自動運転技術や A I (人工知能) の発達により、学問としての「選択」だったものが、実生活の中で生身の人間としての「選択」として求められるようになってきた。誰もが当たり前と言う「生命の大切さ」を多面的・多角的な視点で考えさせ、自分事の問題として生命尊重についての考えを深めたい。

また、本教材の指導に当たっては、発問の仕方に留意し、「切り返しの発問」を繰り返すことによって生徒一人一人の考えを深化させたい。

#### (4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価 (☆)
導入 (5)	1 ○生命は大切だ 生命を守る装置をつけますか？	「大切だ」 「つける」	・ノートの取り方を説明する。
展開 (33)	2 ○自分が運転手ならどうするか。 ・発表する  3 A I (人工知能) だったらどうするか考える。 ・小グループで話し合う ◎「生命を守る装置をつけますか」	急ブレーキをかける 逆走する  答が出せない 悩む  つけたくない・いらぬ	・自動運転と事故の設定を説明する。 ・人間はなんとか事故を回避しようと努力することに気づかせる。 ・この事故がどうしても避けられない事故であることを説明する ・「生命を守る」が誰のどんな生命なのかにつ

	◎「生命を守る装置は必要ですか」 発表する。 4 「トロッコ問題」について考える。	つける・いる	いて考えさせる  ・「トロッコの話」のワークシートを配布する → 学問上の話としての解釈(哲学)と実際に自動運転を普及させるためには、こういった法整備が必要なことにも触れる。
終末(7)	5 今日の学習について振り返る。 発表する		・実際に行われたアンケートの結果を伝える。 ☆「生命を守る」を色々な側面から考えることができた。

## 2 授業の様子

### (1) 板書

「生命を守る装置をつけますか」  
…ここでは何が優先されるのか  
もし自分が  
バスの乗客だったら  
一人でドライブをしていたら

山間部の陸橋 出合い頭の事故

- ・生命は大切だ
- ・生命を守る装置をつけますか

「生命を守る装置をつけますか」  
道徳○回目

### (2) 生徒の様子

授業は、読み物などの資料を用いず、口演法と板書で段階を踏んで生徒自身に考えさせる方式で行った。「このままでは全員亡くなってしまおう」という設定だったが、生徒たちは「どうにかしてこの事故を回避すべく方法」を一生懸命探していた。AIが選ぶ「生命を守る装置」に考えが及ぶと、ため息や驚きの色が見え、「生命の大切さ」について考えを深めている様子が見えた。

〈今日の振り返り〉より

- ・はじめは「命が守れるならつけるべきだ」と思ったけど、この授業で命を守るという言葉の重みを味わった気がする。私は、誰かのために命は犠牲にできないし、他の人もそうだと思うし、そうあって欲しい。1人の命だろうが20人の命だろうが、なくなってよい命なんてない。
- ・AIに自分の命の重みを判断されたくない。命は大事だからこそ、自分で守りたいし、自分で判断したい。